アメリカ合衆国首都ワシントン DC ポトマック河畔の桜並木。日米の友情を願い、明治末に東京市長尾崎行雄より寄贈。これに渡瀬寅次郎も寄与したと言われている。

第4回代戯館まつり

沼津で学んだ近代農業啓蒙家

渡瀬寅次郎展

展示会場／ぬましんストリートギャラリー

期　　間／3月9日　～　4月3日

内村鑑三（1861～1930）

キリスト教思想家。江戸生まれ。札幌農学校在学時キリスト教に入信。日露戦争開戦にあたっては非戦論を唱えた。雑誌「聖書之研究」を創刊。従来の教会的キリスト教に対し無教会主義を主唱。
著「基督信徒の慰め」など他

渡瀬寅次郎（1859～1926）香芽子（1861～1938）

幕臣渡瀬源四郎の次男として、江戸中込に生まれる。10 歳で沼津に移住。代戯館、沼津兵学校附属小学校に学ぶ。明治 13 年札幌農学校代一期生として初の農学士となる。明治 10 年受洗。後年後輩内村鑑三と共に札幌独立キリスト教会の設立に尽くす。YMCA 理事に就任しキリスト教界に貢献。開拓使・農商務省の官吏を経て水戸中学校、・同師範学校・東洋英和学院・麻布中学校・東京学院等で校長を歴任、その後実業界に転じ、東京興農園を経営する一方、大日本農会理事、農商工高等会議議員に選出され、また東京農業大学設立に参画し、終生評議員として大学運営にあたるなど農業振興に寄与。二十世紀梨の命名者、スイートピーなどの外国種を日本に取り入れる。東京市議員として日比谷公園の設立、ポトマック桜公園にも関与。

新渡戸稲造（1862～1933）

思想家・教育者。岩手県生まれ。札幌農学校卒業後、米・独に留学。京大教授・一高校長・東大教授・東京女子大初代学長を歴任。また国際連盟事務局次長を務め国際的にも活躍。キリスト教徒として世界平和のために尽くす。
著「武士道」など他

▼新渡戸稲造が興農学園の開校にあたって揮毫した扁額

Boys, Be ambitious.
James Clarke

寅次郎が命名した「二十世紀」梨 ▶

記念講演会・対談

●期日／平成１９年３月２４日（土）

●会場／ぬましん４階ホール

◎講師／樋口雄彦（国立歴史民俗博物館・総合研究大学院大学助教授）
（1時 30 分～2時 50 分）

◎対談／渡瀬良道（渡瀬寅次郎の孫・興農学園常務理事）・樋口雄彦
（3時～4 時）

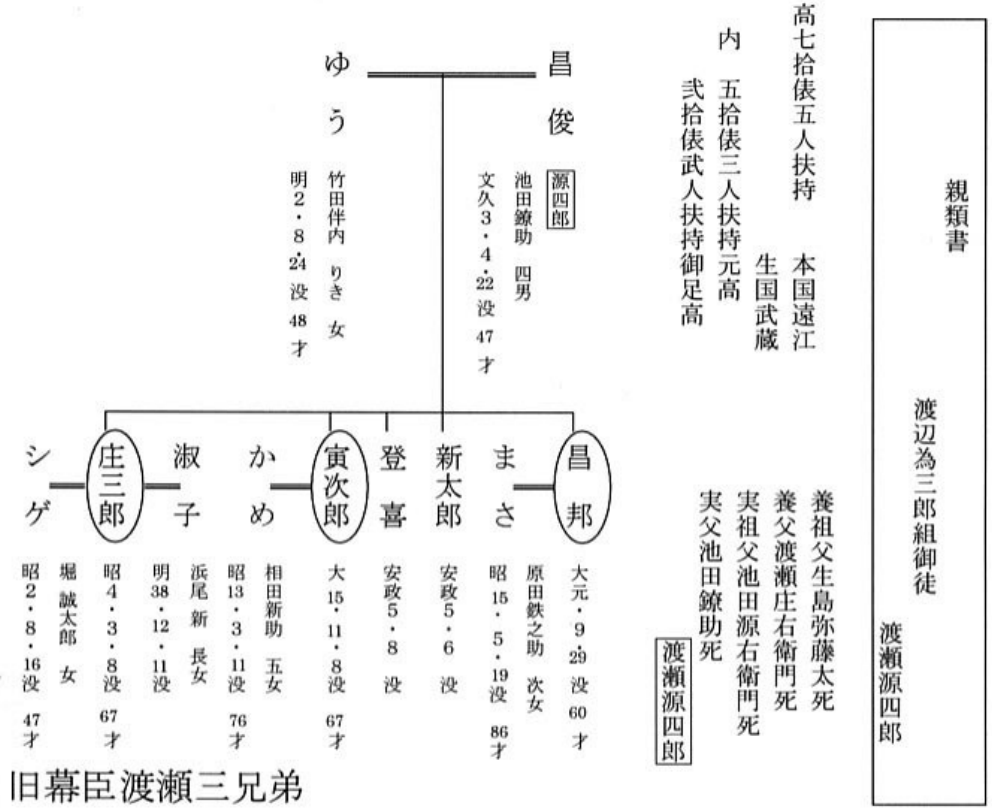
＜お問い合わせ＞
（055）－962－5200

ぬましんストリートギャラリー第 229 回企画展

●主催／代戯館まつり実行委員会　●後援／静岡新聞社・沼津信用金庫・上本町通り商店街　●協力／渡瀬良道・久連自治会

I 旧幕臣渡瀬家 三兄弟

父渡瀬源四郎が幕府に提出された「親類書」によると下記の内容が記されている。
（親類書は自分を中心に祖父母・父母・兄弟等について書きあげたもので、その一部を抜粋）



旧幕臣渡瀬三兄弟

明治維新後、徳川家は 70 万石の一大名として駿河に移封され、旧幕臣の多くが主君に従い東京から静岡へ移住した。既に父は亡く、他の多くの幕臣共々無禄御供（給料なしのお供）で母と子供三人の渡瀬家一家は、駿河国駿東郡中沢田村（後東沢田戸村、現沼津市）に移住した。

母ゆうは元来体があまり丈夫でなかった上、子供三人の養育のため近所の農家の手伝いや裁縫などの無理がたたって、享年 48 でなくなり、沼津の真楽寺に葬られた。この時遺児三人は、18 と 11 と 8 であった。父母亡き後、子供たちの養育にはゆうの母即ち祖母に当たる 70 近い竹田りきが、武家の女性として大変厳しい躾を三児にした。

三兄弟、昌邦・寅次郎・庄三郎は、当時 10 代の少年で、いずれも藩が沼津城下に開いた沼津兵学校附属小学校に学んだ。

兄昌邦は沼津兵学校資業生に及第、後に上京して軍人となり、工兵科で活躍、陸軍少将となった。末弟庄三郎は、札幌農学校を卒業、アメリカにも留学して動物学を修め、理学博士の学位を授与され、東京大学教授として教鞭をとった。この兄昌邦と弟庄三郎にはさまれたのが今回の中心となる寅次郎である。

Ⅱ渡瀬寅次郎の沼津時代

三兄弟は母と共に沼津に来ると、落ち着く間もなく代戯館に入り、幾許もなく愛鷹山麓中澤田村の農家に寄寓し、多少の前後はあったが何れも沼津兵学校付属小学校に入学して、遠路も厭はず通学した。

明治5年兄の上京した頃は東沢田笹見窪の士族長屋から弟庄三郎と共に遥々沼津まで通学していたが、冬季は未明に家を出て校門に近づく頃夜が明けはじめるのであった。5年8月学制頒布により、6年1月から従来の小学校が公立小学校となり。集成舎と更生した時寅次郎は15歳であったが2月同校に特設された變則科に編入された。これは現在の中学校程度の学校で外国人教師も居たので、彼の熱望する英語を勉強するには誂え向きであった。当時彼自身は「今後学問で身を立ててやろうとするには従来の様に和漢の学のみでは駄目で、外国語に精通していなければならぬ」と考えていた。すべての點において海外先進国に後れていた当時のわが国としては、全く正鵠を得た観察と思われる。

その頃は、必要な本があると、在京の兄昌邦から送金してもらうことにしていたが、ある時ナショナル・リーダーが是非共入用になったので、兄に請求してもらうべく兄嫁政子に頼むと「そんなに大切な本なら、あなたの将来のためどんなに高価でも惜しくはありません、態々兄さんに申上げなくても私がだしてあげましょう」と当時としては大金の50銭を快く出してくれた。こうして熱望する本が買えた少年寅次郎は兄嫁の厚い志を深く感謝し、この小冊子をしかと抱きしめて、暫し流るゝ涙も拭い得なかったという可憐な逸話もある。実際両親に早く死別した兄弟にとって、兄夫婦は親にも代わるべき懐しき存在でもあった。

明治8年長兄昌邦氏は工兵少尉に任官して陸軍に奉職することになったので、同年1月一家は東沢田から東京へ移ったが、寅次郎のみは暫らく残留して江原素六の金岡村塾に学んでいたが、3月に上京し、4月より東京英語学校へ入学した。

Ⅲ札幌農学校
－ クラーク博士と信仰の友との出会い －

東京英語学校は官立で大学豫備門の前身であるが、既に沼津の学校で相当の実力を蓄えていた寅次郎は、翌9年7月18歳の時早くも同校を卒業した。本来ならこの時、開成中学校（後の東京大学）へ入るのが順序であるが、『なんとなく農学に自己の将来が見出せるような気がする』と当時北海道に新設されんとする札幌農学校（北海道帝大の前身）を志望し、開拓使で募集した官費生の試験を受け、合格者11人の中に列した。

在学中は、明治9年3月招聘されたクラーク博士の薫陶を受け、その感化によって基督教を信仰するようになった。明治13年7月10日第一回卒業式が挙行され、この時22歳にして本邦最初の栄誉ある農学士となったのである。卒業生は13名（地元入学者を含む）でその中には後年北大總長となった佐藤昌介博士もいた。1 年後輩には新渡戸稲造、内村鑑三氏等が在校していた。

寅次郎はクラーク博士の人格と教育から強烈な影響を受けた。クラーク博士が任期も終わりを迎える頃、生徒等に求めた「イエスを信じる者の誓約」にも署名し、洗礼を受け、生涯基督教の信仰を貫いた。卒業後（明治13年）開拓使として奉職するかたわら、一期、二期生と共に自分たちの手で自分たちの教会を建てるべく計画実行し、説教も担当した。これが現在の札幌独立教会である。因みに独立教会設立の委員として、寅次郎の他に佐藤昌介、大島正健、内村鑑三の名があり、会員の中には、弟庄三郎の名もあった。

卒業と同時に開拓使御用掛を拝命し、爾来17年7月まで満4ヵ年を専ら北海道農業振興のために捧げた。その間15年2月開拓使の廃止されるに及び、新たに置かれた札幌縣の御用掛となったが、17年7月依願免官となり、茲に農学校入学依頼前後9ヵ年に及ぶ札幌の地に別れを告げて上京した。

Ⅳ寅次郎の海外視察

寅次郎は農学校時代の燃えるような研究癖を終生持ち続けた。

1885年（明治18）26歳　英国ロンドン万国博覧会事務官として渡英

これは、明治１７年農商務省御用係りを拝命、北海道事業管理局取扱となり、同局長安田定則氏が上記博覧会事務局長として渡英するに当たり随行を命ぜられたためである。

博覧会終了後英国の農学校の調査をはじめ欧州各国の農業全般を視察し、我国の種苗及び農具供給者の知識と実力があまりにも劣っていることを痛感させられる。後年氏が野に下って東京興農園の事業を創めた動機はこのときに胚胎していた。

1900年（明治33）41歳　米国及びカナダにおける農業視察、優良なる種苗種豚及び蜜蜂購入目的のため渡米

併せて当時の農務大臣曾彌荒助より米大陸おける果樹蔬菜類の日本の風土の適する種類、果物蔬菜ならびにその害虫駆除法の調査をも委嘱された。

1906年（明治39）47歳　東京市より任命された利源調査委員として朝鮮満州方面を視察

この時、早くも満州富源の将来性に着目し、アメリカ式農業技術を用いて、寒気に対し強き住民を移住することによって開発すれば、必ず豊富な収穫を得ること必至と説く。この後の発展を見ると、卓見と称すべく見解を持ちえていた。

1909年（明治42）50歳　渋沢栄一を首班とする渡米実業団員の資格で米国各地カナダ･メキシコ方面を視察

10年間における米大陸脳業界と現状をつぶさに再検討を試みる。

1924年（大正13）65歳　香港･広東から台湾へ渡中農業視察

逝去する２年前、老躯を提げて香港･広東から台湾へ渡中農業視察を行う。

V教育界への活動

①官学より私学へ

1886年（明治19）27歳　英国より4月帰朝、偶々上司であり博覧会事務局長であった安田定則が茨城県知事となったので、その懇望を容れ若干27歳にして県立水戸中学校長兼一等教諭に任ぜられた。中等教育の刷新を図り、英語と体育に主力を注ぐ他県下産業振興についても知事に進言していた。

寅次郎による水戸の野球事始

1873年（明治6）アメリカより渡来したベースボールを「野球」と訳した名付け親は俳人の正岡子規であるが、第4代の水戸中学校長となった27歳の寅次郎は体育にも心を用い当時としては珍しい新式スポーツのベースボールを取り上げ中学と師範の対抗試合も再々行うなど水戸に野球を広めた。原書から野球のルールを翻訳し実際に教えたのは、札幌農学校出身の河村九淵教諭である。

1888年（明治21）29歳　水戸尋常師範学校長に転任。また、県学務課長をも兼任且つ公私立小学校教科用図書審査委員長に選ばれた

1889年（明治22）30歳　師範学校教員の不祥事の責を負い、辞表を提出。これを機に文部大臣・局長から他の学校長就任の要請もあったが、官学には絶対に近づかなかった。以後、東洋英和学校の教鞭を執り、麻布中学校教頭に就任、東京学院院長となるなど数々の私学運営、設立に力を注いだ。

②大日本農会・東京農業大学との関係

かねてよりの念願であった農業振興に寄与する希望は明治22年大日本農会特選幹事及び同会農芸委員になった事よりスタートする。同会が大正5年社団法人に改組され理事に就任し、以降大正13年退く迄の30数年間常にその要職にあった。

東京農学校は明治24年旧幕臣及び旧静岡藩士が中心となり、榎本武揚を校主として設立した育英黌農学科が明治26年独立してなったもので、我国初の私立農学校である。しかし経営上の行き詰まりから明治30年大日本農会が譲り受け、経営に関与することになった。

寅次郎は明治26年、東京農学校の評議員となり、会の付属校となった後もその立場に留まり、大正14年迄在職し、その間科外講師として学生の指導にも当った。

Ⅵ東京興農園

欧州各国の視察により当時日本では農業発達のための優良な種苗、農具、知識を提供する場所がないのを残念に思い、1892 年（明治 25）33 歳のとき自らその任にあたることを決意し、東京興農園を創立。本店を赤坂溜池に置き、優良種苗・農機具・農薬･肥料・書籍の販売を行う一方興農雑誌を創刊した。また自ら農業書の出版をも開始した。

○事業の拡大と共に札幌に支店を、台湾や埼玉に農場を設ける等、全国に営業や研究・開発の拠点を広げた。その一つが明治 36 年、後に第二農場として位置づけられた現沼津市西浦久連の山林 15 町歩を取得して設置された採種場農場である。最新の品種改良等を行った当農場の出現は、西浦・内浦一帯においてミカン栽培を促進し、今日一大生産基地となる素地をなした。

・東京駒沢に試験場を設けメロンの栽培を試みる。
　時の米国公使ダンは、興農園産のメロンの味を賞賛した。
・札幌に果樹園を経営、信州上田には蚕種所を設ける。
・渡米後はアメリカ製新式農具や農業雑誌・書籍の輸入取次ぎ販売も始めた。

○特殊な草花や果実に新味ある名称を寅次郎によって名付けられた。その中の最も有名なのは千葉県松戸市の大橋錦果園で出来た太白種の新種梨を「20 世紀」と名付けたことである。

寅次郎 新種梨を『二十世紀』と命名

「二十世紀梨」は大橋で 1888 年（明治 21）まだ、少年であった松戸覚之助によって梨の幼木が発見され、10 年を経た明治 31 年 9 月初めて成熟した果実を結んだ。これは、単に偶然ではなく、当地方（千葉）における梨栽培の歴史のなかで培われた類まれな「観察する目」を松戸少年がもっていたことによる功績であった。

本種を空前絶後の優良品種と査定した寅次郎に命名を依頼し、東京帝大学農科助教授池田伴親と相談のうえ、「この先、右に出るような品種もなく、20 世紀時代を背負って立つに違いない」との思いから明治 37 年に「二十世紀梨」と命名した。

明治 38 年 5 月、東京興農園の興農雑誌に本種の優秀なことが掲載されるや否や、たちまちにしてその名声は関係者の間に伝わり、各府県農務課、県農会そのほか熱心な篤農家などの視察に来園するものが後をたたず、そのつど苗木や穂木を懇望された。

そこで、松戸覚之助は毎年数千本の苗木を養成し、広く一般栽培者と種苗業者に配布したが、養成本数の一割は全国の梨栽培篤農家に無償配布して、試作を乞うという熱心さであった。こうした優秀な品種をもちながらこれを独占することなく率先して広く開放した松戸覚之助の人柄こそが、本種の急速な普及をうながし、まさに二十世紀梨時代の発端をつくった直接の原因である。

Ⅶ東京市政に参画

寅次郎は農業人として我国農業界のために尽くしたのみでなく教育、実業、宗教とあらゆる方面に活躍したが東京市政にも貢献する所少なくなかった。

1892 年（明治 25）33 歳で赤坂区会議員に選出、大正 6 年まで毎回当選し、その間議長、学務委員長に選ばれた。明治 32 年 40 歳東京市会議員に選出、続いて同市参事会議員にも当選。寅次郎は欧米の各首都視察の経験を生かし日比谷公園の造園計画をはじめ築地港・市場；改修など市民生活の近代化にも力を注いだ。時の東京市長尾崎行雄（のちに憲政の神様と称された尾崎咢堂）に深く信頼され下記のエピソードが残されている。

尾崎がアメリカの２７代大統領 W.H.タフト（1909 年～1913 年）の就任を祝い、記念になるプレゼントはないかと思いあぐね、寅次郎に相談した。その結果、寅次郎の案を受け入れ、ワシントン・ポトマック河畔の桜となり、これらの木々が今や約百年の年輪を重ね毎年 4 月に日米友好の催しが満開の桜の下で行われている。

東京で日本初の万国博覧会を開く計画が、尾崎を中心に進められているとき、具体化に当たり尾崎は、優れた国際感覚を持ち、卓越した発想を展開できる寅次郎を事務局長にすることを考えていた。しかし、明治天皇の崩御により計画は総て中止となった。

寅次郎とワシントンの桜

資料によれば、1909 年（明治 42）12 月 10 日に 2000 本の桜の木が日本からアメリカのシアトルに到着した。しかし、大変残念なことに、これらの木には害虫がついていたり、ネマトーダなどの病気を持っていたものが見つかったりしたため、農務省の判断でやむを得ず焼却処分されることになった。東京市側はこのあと、あらためて適切な木を選別して米国に輸出することにし、その結果、２年余り後の 1912 年（明治 45）2 月に横浜からシアトルに出荷された。（この間、交渉や手配について日本側は東京市、および日本領事館水野領事、高峰譲吉博士、駐米大使夫人の珍田子爵夫人。アメリカ側は農務省、タフト大統領夫人などが係わられ、桜の樹木を植える場所などもいろいろと相談、熟慮の結果）植える場所はポトマック河口付近から 125 フィート南方のところと決まった。専門的な知識を持った寅次郎が、桜の木をアメリカのワシントンへ、日本から送るにあたって、樹木の選択その他に深く係わったことは言うまでもない。即ち、最初に送られた桜の木に害虫がついていたり、病気が見つかったりしたため、二度目の桜の木の選別に当たっては、市の依頼もあり、寅次郎自身が自ら細心の注意を払って苗木から育て、二年余りたった後、出荷の運びとなったのである。

そして、タフト大統領夫人から日本の珍田大使夫人に桜の木の返礼として「アメリカンビューティー」という品種のバラの花束が贈呈されたということである。この時以来、現在に至るまで毎年 3 月末から４月の時期になると、日本でも必ず話題になる有名な「ワシントン桜祭り」が始まったのである。

Ⅷ興農学園

興農学園の創立

興農学園は、1929 年（昭和４）静岡県田方郡西浦久連現沼津市西浦久連に設立され、キリスト教主義に基づき農業教育を行った学校である。

寅次郎は開園の 3 年前咽頭癌の手術で声を失い、1926 年（大正 15）11 月８日開校を前に 68 歳の生涯を閉じた。声を失ってからは筆談で、筆を持てなくなってからは、夫人の手のひらに指で字を書き、学園に対する志を伝えた。「余は既に再起の見込みなし。よってこれより天父の御許に行かんとす。遺族よ、余がかねて希望せる学校を設立し、その実現を図ることを忘るなかれ」と。

寅次郎と久連との関係

当時学園設立候補地として、栃木、千葉、東京郊外等を物色されたのであるが、興農園が久連に農場を所有していたこと、寅次郎が明治 35 年以来最愛の地であったこともあり、当地に決定した。

新渡戸稲造の躍進

1927 年（昭和 2）4 月、寅次郎の遺志を実現すべく最初の会合が開かれた。参集者は、未亡人香芽子、弟庄三郎、植松澄三郎、伊藤一隆、田中次郎、小坂順造、そして、その意図に異常なまでの感激と賛意を表明した人—内村鑑三。

第 2 回目の会合からは佐藤昌介、宮部金吾、そして新渡戸稲造が加わった。新渡戸の参加は内村の強い要請によるものだった。数度にわたる打合せの結果、学校名は興農学園とし、渡瀬家が基本金として 10 万円と、静岡県西浦村（現沼津市）久連の土地を提供することが決定。

開校の年、昭和 4 年新渡戸、すでに 68 歳。すでに国際連盟事務局次長の職は辞し、貴族院議員に勅撰されていた。6 月 13 日、盛大に開校式が挙行される。初年度入学者 10 人足らずの小さな学園だった。

席上、新渡戸が記念講演をおこなった。講演の、おそらく直前か直後、新渡戸は興農学園の開校を祝って揮毫した。Boys, Be ambitious. と。

筆勢のおもむくまま、墨液が一滴飛んで紙に落ちた。（その書が、いま北大学長室にある。）毛筆で英文を書く、というやや奇異とも思われる取り合わせを新渡戸は全然意に介さなかったようである。その日前後、彼は「何者に対しても悪意を持たず—」というリンカーンの言葉を、やはり毛筆で揮毫した。

10 月には、京都で開かれた第 3 回太平洋会議の議長となり、列国代表の対日感情を宥和させることに大いに貢献した。

新渡戸における昭和 4 年は、彼の人格と思想が、ひときわ絢爛と躍動した時期であり、カナダのヴィクトリア市で客死するまで、4 年の月日が残されていた。

開園

校長は、デンマーク通として知られた長野県出身の社会教育家平林広人（1886～1986）。学校は、デンマークの国民高等学校フォルケホイスコーレに範を取ったもので、共同生活の中、青少年を対象に農民の実生活に即した教科、実習が指導された。

国民高等学校

1933 年（昭和８）興農学園は財団法人の名称となり、学校は久連国民高等学校と改称した。二代目校長は栃木県出身の大谷英一（1905～94）。不況と資本主義発展の陰で苦しむ日本の農村、農民にとって、デンマークは豊かな農業国の理想とされたが、興農学園にも知識、技術のみならず「道」を求めて全国から生徒が集まった（卒業者 200 名以上）。柑橘栽培の研究、各種講習会の開催などを通じて地元へも貢献、地域に根付いていった。

ところがアジア太平洋戦争が進む中、国粋化を余儀なくされ、1942 年（昭和１７）農道塾と改称、国策への協力のため併設した静岡県西浦農学校も翌年には廃止され、事実上活動は停止した。

戦後

敗戦後、大谷校長は去り、興農学園が教育機関として再興されることはなかった。しかし、大谷の跡を継いだ植物学者古里和夫により、昭和 30 年代まで柑橘の研究や寅次郎が輸入した外来の珍しい樹木の保存、公開などがなされた。

IX妻 香芽子の歩んだ道

1861年（文久元）武蔵国忍町行田にて藩士相田新助の五女として生まれる。
幼くして母を亡くし、７歳の頃に父をも亡くす。

1874年（明治７）13歳のとき兄に伴われ東京九段坂に引っ越す。
当時明治文明開化の気運高く、彼女は英語を学ぶことに強い情熱を傾けた。上京した年に築地のＡ六番女学校に入学、この女学校は1870年（明治３）アメリカ長老教会婦人伝道会から派遣されたカロゾルス婦人によって創始され日本女性の英語教育を目的としていた。香芽子は寄宿舎に入り、教師は全員英米人、教科書も日常会話もすべて英語という英語漬けの生活を過ごした。そして、ミッションスクールであったため明治７年受洗クリスチャンとなる。

1882年（明治15）学校名は新栄女学校（現在の女子学院）とはなっていたが、ただ一人の第一期卒業生となった。

1883年（明治16）寅次郎と新栄女学校の礼拝堂で結婚式を挙げた。

1885年（明治18）万国キリスト教婦人矯風会レヴィット夫人来日にける講演会で恐らく日本女性初の同時通訳者としての大役を果たす。
この講演会には、矢島楫子女史や山室軍平氏など後の日本におけるキリスト教組織を設立し、社会貢献事業に大きく活躍した人材が多くおり、近代日本に大きな影響を及ぼした。これを契機に香芽子自身矯風事業にかかわっていくことになる。

1923年（大正12）矯風会が法人認可を受けた時には理事に就任。

1920年（大正9）及び1928年（昭和3）の2度に渡って万国キリスト教婦人矯風会大会に日本代表として出席。

夫の亡き後は遺言であった国民高等学校の設立に尽力し、彼女を中心とした多くの人の協力のお陰で興農学園が沼津久連の地に誕生、香芽子はこの学園に寄宿舎と礼拝堂を寄附したのであった。

また婦人会活動においても行動の人であった。水戸市に住んでいた時は水戸婦人の文化指導を志し、英語講習会を開き英語の普及に努める一方、市内で初めての幼稚園を創り、婦人会も興した。1889年（明治22）　東京に戻ってもその活動を続け、数年後には全国各地に「母の会」を設けられるようになった。

香芽子は男尊女卑が当たり前だった当時、進歩的な生き方を貫いた反面、夫の事業を支え、10人もの子供を育て上げたことは見事なことであると同時に自分の学歴、キャリアを社会にきちんと還元していたことは、寅次郎共々真のエリートの姿そのものと言える。

Xまとめ

寅次郎弱冠 21 歳、札幌農学校演武場の壇上から、農業こそ最も尊い職業なり、と叫んでから以後、生涯の全期間、彼はその信条を貫き通し、自らの死後に向けてさえ農業教育への思いを残して逝った。一方、実業家としての感覚も非凡であったことをいくつかの事例が物語っているし、勤労の結果として得られる報酬と地位は、これを神の恩寵として受け入れるというピューリタン精神を、まことにみごとに体現した。

彼は、内村や新渡戸のような思想家ではなかったし、宮部や弟庄三郎のような学究一筋の人生も選択しなかった。けれども、もしクラーク精神というようなものがあるとしたら、それを最も醇化した形で示したのが寅次郎ではなかったか—ひょっとして、クラーク以上にクラーク的だったといえはしないか（ただし、彼の遺した著述や書簡の中にBoys, Be ambitious.という句は、一度も出てこない）。

彼の挙措言動には終始一貫、その死にいたるまで、つねに凛とした風があって、これは武家の生まれという出自や江戸人に共通する一種の美学と無縁ではないように思える。

幾多の逸材を輩出した沼津兵学校附属小学校の卒業生の中でも、文字通り和魂洋才にあって、実学のあるべき姿をしっかりとらえ、文明開化の時代、キリスト教精神に裏づけされた武士道を歩んだ人として、今なお評価がたかまっている新渡戸稲造と共に渡瀬寅次郎の名を広く世に知らせたく、代戯館まつり第4回に取り上げたものです。

渡瀬寅次郎テーマに講演

24日、代戯館まつりの一環

沼津 上本通り商店街振興組合

沼津市の上本通り商店街振興組合（長谷川徹理事長）は二十四日、活性化事業「代戯館まつり」の一環として、同市にゆかりの深い近代農業啓蒙（けいもう）家、渡瀬寅次郎（一八五九―一九二六年）をテーマにした講演会を開く。

渡瀬寅次郎

渡瀬寅次郎は、現在の同商店街の一角に明治元年開設された最も古い近代小学校「代戯館」で学んだ。卒業後は札幌農学校を経て全国各地の学校で農業を指導。東京農大設立などにも尽力した。

講演では、国立歴史民俗博物館・総合研究大学院大学助教授の樋口雄彦氏が渡瀬寅次郎の功績を紹介した後、孫の渡瀬良道氏と対談する。

会場は同市大手町の沼津信用金庫本店ホールで、時間は午後一時半から四時まで。入場無料。四月三日までは同信金ストリートギャラリーでパネル展示なども行っている。